

標準施工要領書

ガッチリ浸透プライマーW・寒冷地

ヤブ原産業株式会社

〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷 546

TEL 048(297)4111 FAX 048(290)1198

1. 特 長

- 脆弱した無機質系下地に容易に浸透し強化します。
- 水性エマルジョンなので有機溶剤の発散がありません。
- 塗布後、モルタルなどのセメント系材料が直接施工できます。
- 気温-5℃まで施工可能です。（ガッチリ浸透プライマー寒冷地用）
- 一液でかつ原液使用の為、混ぜたり希釈する必要がありません。

2. 用 途

- 1) 施工直後の雨うたれにより、脆弱したモルタル・コンクリート表面の浸透強化。
- 2) 凍害をうけて脆弱したモルタル・コンクリート表層の浸透強化。
- 3) 無機質系セルフレベリング材の硬化不良による脆弱表面の浸透強化。
- 4) 経年による風化・中性化による脆弱層の浸透強化。
- 5) 劣化した内装の砂壁、漆喰、せんい壁などの表面強化。

3. 工 程

工 程	材 料 ・ 調 合	施 工 器 具	使 用 量	塗回数	間隔時間
プライマー塗布	ガッチリ浸透 プライマーW	ウーローラー ジョウロ モップ エアレス その他	0.2~0.5kg/m ² (脆弱度合いによる)	1 以上	1 h 以内

※塗布面の脆弱の度合いによって塗布量は変わります。

※吸い込みの激しい場合は、状況に応じて2~3回塗布してください。

4. 工 法

1) 下地

凍害や雨うたれなど、著しく脆弱な部分が厚い場合は除去し、清掃してください。

下地は十分に乾燥しているか確認してください。浸透性能を阻害されます。

2) 塗布

ウーローラー・ジョウロ等にて原液のまま表面に残るぐらいまで塗布してください。

吸い込みの多い場合は、状況に応じて1時間以内に数回塗布してください。

3) 乾燥

放置して自然乾燥させます。（20℃・2~3時間を目安）次工程に移ってください。

モルタルなどの厚みがあるものを施工する場合は翌日以降としてください。

4) 仕上げ材施工

モルタル・外装材・床材・防水材等、用途に適した仕上げ材の標準施工仕様に基づいて施工してください。（原則として専用プライマーがある場合は、それを塗布してください）

※仕上げ材の下塗りとして溶剤系のプライマーを使用する場合は、溶剤分を閉じ込めないよう十分に揮発させてから仕上げ材塗りを行ってください。詳しくはお問い合わせください）

次工程仕上げ材の種類	専用プライマーの必要性
セメント系仕上げ材	不要（※セルフレベリング材は必要）
水性塗料	不要 ※1
弱溶剤系塗料	必要
強溶剤系塗料	必要

■原則として、仕上げ材の専用プライマーがある場合は、それを塗布してください。

※1 防水系材料（弾性系材料）の場合は専用プライマーを必ず塗布してください。

5. 注意事項

- 1) 十分な効力を発揮するため、塗布下地は乾燥させてください。（含水率 10%以下）
- 2) 用途以外には使用しないでください。また他の材料と混ぜて使用しないでください。
- 3) 使用の際には、ビニール製の保護手袋、保護眼鏡を着用してください。
- 4) 一度容器からとり出した材料は、汚染防止のため絶対に元の容器に戻さないでください。
- 5) 液が直接皮膚に付着した場合、肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いをしてください。
- 6) 眼に入った場合は、直ちに流水で 15 分以上洗眼し、異常のある場合には医師に相談してください。
- 7) 誤って飲み込んだ場合は、大量の水を飲ませて吐かせ、異常のある場合には医師に相談してください。
- 8) 吸入して気分の悪くなった場合は、速やかに新鮮な空気のある場所に移動し、水または、温水でうがいをしてください。状況に応じて医師の診断を受けてください。
- 9) 誤飲を起こす恐れのある容器での保管は避けてください。
- 10) 材料の保管は、直射日光を避けて常温で保管してください。
- 11) 保管温度は下記としてください。

ガッチリ浸透プライマーW 0℃以上、40℃以下

ガッチリ浸透プライマー寒冷地 -5℃以上、40℃以下

- 12) 漏出した液体は、布などで吸い取るか、セメント、おが屑、土砂などを混ぜ、モルタル状として凝固回収してください。
- 13) 側溝、河川、湖沼等へは絶対に廃棄しないで、産業廃棄物として適切な処理をしてください。
- 14) 材料の取扱いについては、製品に記載された注意事項をよく読んでからご使用ください。その他詳細な内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 15) 露出仕上げの場合、汚れ・埃が付いたり、艶や色のムラが出る可能性があります。また露出仕上げで常時浸水する場所には適しません。
- 16) 酸と反応するとゲル化する可能性があります。
- 17) ガッチリ浸透プライマーを塗布し、塗布間隔が過ぎた後、若しくは下地においてガッチリ浸透プライマーが飽和状態で再度塗布した場合、浸透せずフィルム状で膜になる場合があります。
- 18) 気温 5℃以上での施工を心掛けて下さい。（寒冷地用は除く）

6. 荷姿

内容量	形態	施工面積 (㎡)
4 k g	ポリ容器	8~20
14 k g	ポリペール缶	28~70

※塗布面の脆弱の度合いによって塗布量は変化します。吸込みの激しい場合は状況に応じて数回塗布してください。